第１回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日程	令和6年9月12日(木)～9月20日(金)
場所	美濃加茂市役所及び訪問先
委員	【産】(株)フジイ　代表取締役　金森　薫氏 【労】(株)濃飛葬祭　代表取締役　鈴木　哲馬氏 【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科　教授　杉山　祐子氏 【学】元可茂教育事務所所長・元太田小学校校長　三尾　不二男氏 【学】元加茂高等学校校長　平野　弘氏 【金】東濃信用金庫美濃加茂支店　支店長　佐藤　幸一氏 【言】(有)コニー　代表取締役　伊佐治　栄子氏 【言】みのかもフリーペーパー歩好里人　代表　安藤　摩里氏 【国】のぞみ教室　主任指導員　藤木　燦斗良　春美氏
事務局	経営企画部　企画課

〇第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

　アドバイザーと面談し、第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に関して意見をいただいた。

【アドバイザーからの意見】

・新規事業(不動産)として空き家を所有者から借りて、外国人に貸す事業を開始した。残クレ方式のように期限が来たら外国人に買い取るかどうか決めてもらう。外国人は築年数が結構経過した物件でも、自分たちでリフォームなどするため、日本人よりは気にせずに契約する。物件所有者も、空き家のままでは困るので、互いにメリットがある。結果的に空き家対策につながっていくのではないかと考える。

・鉄道やバスは重要である。昔のように名鉄の電車が美濃太田駅に入ってくるようになると便利である。

・ネットにつながる＝世界とつながるということ。SNS 等を活用したプロモーション方法はやり方次第ではかなり影響力が大きいと考える。

・可児市にある、木曽川沿いのかぐや姫の散歩道を整備している団体の広報方法に共感した。無料でSNS 活用講座を行い、整備事業等の活動内容を参加者にアップしてもらうことで、参加者が広報者になる形で参加者にPRしてもらうスキームになっている。

・日本語は難しいため、外国人児童が中学校、高校レベルになった時に、言葉は読めるが、その内容について理解が追いつかなくなるケースが多い。

・外国人児童に対する支援はかなり手厚いことを行っていると感じる。ただ、居場所(精神的)が無いと感じる児童もいる。

・「教育」に注力することをもっと見せていく。他自治体との違いを分かりやすく伝えてほしい。

・魅力あるまちであることを、どのような方法で発信していくのかなど、プロモーションが大事である。

・市内まち協で実施したアンケートの結果で、子どもに住みつづけて欲しいと思う親御さんの割合が低かったと聞いた。市外に出て子どもの可能性を広げたいと思ってのことなのか、美濃加茂市は住みにくいと感じるから子どもに住み続けるよう強制する気はないと思ってのことなのかは分からない。
・のぞみ教室に通わせたいと思う外国人は多く、市外から転入してきたケースもあった。ただ、長年住んでいる外国人の中には、通わせたくないと思う外国人もいる。昔は、外国人児童も少なく、日本語を日本人児童のコミュニティに飛び込んで吸収していったが、近年は、外国人児童が多くなり、外国人児童でコミュニティを作ることから日本語の吸収が遅い。昔を経験した外国人はのぞみ教室に通わなくても日本語は覚えることができると思っているかもしれないが、外国人が多いことで言語をベースとしたグループを作ってしまうと、日本語を使わなくてはならない状況が減ってしまう。
・外国人児童が将来、高校、大学までの進学を見据えると、小学校2年生ぐらいまでに日本に来ないと日本語を理解する期間が短く厳しい。大きくなってから来日すると時間が足りない。
・部活動の地域移行によって、部活動が縮小していくことも考えられることから、その分を体験型の事業として経験させると良いのではないか。
・外国人から住宅購入の相談（新築、リフォーム）はそれなりにある。基本的には融資条件をクリアするかどうかだけである。
・起業相談については、全くゼロからの企業ではなくて、第2創業での案件割合が多い。新型コロナウイルスの影響もあり、業務内容の転換・見直しする企業がある。
・建築業者は物価高騰による影響で建築資材が高騰し、厳しい業況であり、今後、住宅を確保したいと思っても、所得上がっていかないことから、スムーズに新築住宅が増加していくとは考えにくい。
・マクドナルド初代社長・藤田田氏の「12歳までに味覚が決まる」という理論に共感した。12歳の時にハンバーガーがおいしいと感じれば、大人になっても食べ続ける。さらに自分の子ども達にも食べさせるため、その連鎖がずっと続く。総合戦略もこれからを担う世代に「美濃加茂市は住みよいまちだ」と愛着を持ってもらえば、次の世代、そのまた次の世代とつながっていくのではないかと思う。良質な感動や経験をいくつ、どんなことをするかは子どもにとって重要で、人や自然との関わりで得られたものは、魅力としてその子の血肉となりやすい。
・少子化対策（出産）に視点を置いていないことは良いと思う。その対策は国が行うことである。
・魅力あるまちであることを、具体的に発信することが重要である。
・生活に結び付く教育、将来につながる教育を実施して欲しい。
・世界を見ることやプロフェッショナルに触れること、多世代を感じさせることなど、家庭ではできない教育を行政がやってくれると、親はよろこぶ。（家庭教育を担ってほしいということとは主旨が異なる）
・美濃加茂市は多文化共生の分野が進んでいる。長年の実績・経験は他の自治体にはなく、全国的にも外国人人口は増えることから、美濃加茂市はモデル都市になってもおかしくない。
・あい愛バスのデザインでもそうだが、美濃加茂市の行う事業はオシャレなものが多い。まわりへの見せ方は重要である。総合戦略も発信がうまくいかなければ広がっていかない。
・市内高校の生徒は地元志向が強い生徒が多いと感じる。学力的に関東圏、関西圏の有名大学を受験できるのに、名古屋大学や岐阜大学を受験する。経済的理由なのか、本当に地元が好きで留まるのかまでは分析できていない。
・片親の家庭が増えてきた。教育をしっかりと受けることができる体制の整備の重要度が増している。
・学ぶことのよろこびを感じる機会が少なくなったと感じる。総合戦略のかかげる美濃加茂市ならではの学びでそういった機会を創出できるとよい。

・体育館などスポーツができる環境を整備し、スポーツ教育を推進していくと良いと思う。自分で何かをやりたいと思えるきっかけにもなるし、人と人の交流も生まれる。教育も嫌々受けるのではなくて、自分からぜひ受けたい、やりたいと思えることが重要。市への愛着にもつながると思う。
・たくみアカデミーの生徒は地元に就職する生徒が多いと聞くが、地元企業に就職するにも企業の体制が整備されていないと就職してくれない。働き手の状況に企業が合わせていかないと人を確保できない状況である。